

Oracle® Hyperion Financial Data Quality Enterprise Edition Source Adapter for SAP ERP
Bristlecone 統合コンポーネント・インストール・ガイド

README

目次

目的	3
概要	3
Bristlecone 統合コンポーネントのシステム要件	3
サポートされているプラットフォーム	4
サポートされている言語	4
新しい機能	4
このパッチで修正される不具合	5
このパッチの既知の問題	5
FDMEE SAP アダプタのインストール	5
FDMEE SAP アダプタとともに使用するための SAP システムの構成	6
ODI で使用する SAP のユーザーの準備	6
RKM を初めて実行するために必要な認証	6
ABAP のアップロード・オプションを有効にした LKM を実行するために必要な認証	10
ABAP のアップロード・オプションを無効にした LKM を実行するために必要な認証(QA または本番)	13
SAP でのインストール・ベース・パッケージの作成	14
RKM の実行	14
SAP トランспорт要求のインポート	15
ドリル・バックのための SAP の構成	15
SAP ソース・システムとともに使用するための ODI の構成	15
ODI Studio および SAP JCo のインストール	15
トポロジおよび作業リポジトリの設定	16
SAP 本番システムの構成	18
SAP ソース表	19
SAP ソース・システムからデータをインポートするための FDMEE の使用	21
SAP ソース・システム用の FDMEE の構成	21
SAP アダプタの使用	21
SAP GL アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義	22
SAP 利益センター・アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義	22
SAP 費用センター・アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義	23
SAP AP アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義	24

目的

このドキュメントは、SAP ERP 財務会計と Oracle Hyperion Enterprise Performance Management (EPM) システムの統合に関する情報を提供します。

この統合では、ODI SAP アダプタを活用して、SAP からのデータ抽出とロードを実行します。統合のプロセス全体を理解するには、次の URL の ODI SAP アダプタ・ドキュメントを確認してください
http://docs.oracle.com/cd/E17904_01/doc.1111/e17466/sap_abap_erp.htm。

概要

この統合は、SAP ERP 財務会計から Oracle Hyperion EPM システムにデータをロードするための事前パッケージソリューションを提供します。さらに、Oracle Hyperion EPM システムから SAP ERP 財務会計へのドリルスルーもサポートします。次に示す SAP ERP 財務会計モジュールの統合がサポートされます。

- 一般会計
 - 利益センター
 - 費用センター
 - ベンダー
 - 顧客
-

Bristlecone 統合コンポーネントのシステム要件

次に Bristlecone 統合コンポーネントのシステム要件を示します。

- SAP システム・バージョン: ECC6.0 EHP3、ECC6.0 EHP6 および R/3 4.7
- SAP ECC6.0 EHP3 システムの推奨リリース・バージョン:
 - ′ カーネル: 700_REL
 - ′ 基本: 700
 - ′ ABAP: 700
 - ′ SAP_APPL: 603
- SAP ECC6.0 EHP6 システムの推奨リリース・バージョン:
 - ′ カーネル: 720_REL
 - ′ 基本: 731
 - ′ ABAP: 731
 - ′ SAP_APPL: 606
- SAP 4.7 の推奨リリース・バージョン
 - ′ カーネル: 640_REL (非 Unicode)

- ・ 基本: 620
- ・ ABAP: 620
- ・ SAP_APPL: 470
- ・ ITS サーバー・バージョン: ITS 6.2 またはそれ以降
- ・ サポートされる EPM バージョンおよび必要な ODI/ODI コンポーネント・バージョン

EPM バージョン	ODI/ODI コンポーネント・バージョン
11.1.2.3	11.1.1.7+10.1.3.20 Open Tool + sapjco3.0.2 以上

- ・ サポートされる EPM バージョンおよび必要な SAP アダプタ・バージョン

EPM バージョン	SAP アダプタ・バージョン
11.1.2.3	_SAP_ADAPTER_4_0_0

- ・ FDMEE パッチ・セット更新 11.1.2.3.530 またはそれ以降

サポートされるプラットフォーム

- ・ サポートされるすべてのプラットフォームに適用

サポートされる言語

- ・ サポートされるすべての言語に適用

新しい機能

- ・ 費用センター・アダプタのパフォーマンスの向上
- ・ 各アダプタの一時表を削除するためのプロシージャ開発
- ・ SAP GUI へのドリルスルーのサポート

このパッチで修正される不具合

不具合番号	修正済不具合
19054142	SAP 認証に関する SAP ERP/BW ドキュメント更新
19148078	FTP パス長のコード修正。

不具合番号	修正済不具合
19148200	LKM SAP ERP & BW -> SAP 一時ディレクトリ・パスのパラメータ化
19552662	LKM SAP ERP: ZODI_DELETE_FTP_FILE がファイルを削除しない

このパッチの既知の問題

次に示す問題は、このパッチで注目すべき既知の問題です。

不具合番号	問題
• 20075143	LKM SAP ERP/BW がクリーンアップ時に一時データ・ファイルを切り捨てるが、削除しない。つまり、0KB のファイルが SAP の作業デ

FDMEE SAP アダプタのインストール

この項では、FDMEE SAP アダプタを適用することに関する重要な情報を説明します。このパッチを適用するには、次の手順に従います。

1. FDMEE サービスを停止します
2. ダウンロードして、ダウンロードされたパッチ・ファイル 20448414.zip を<EPM_ORACLE_HOME>/OPatch ディレクトリ(デフォルトでは、Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/OPatch)に解凍します。
3. FDMEE がインストールされているサーバーで、コマンド・ラインからディレクトリを<EPM_ORACLE_HOME>/OPatch に移動します。
4. パッチを適用するには、次のコマンドを 1 行で入力します。

Windows:

```
opatch.bat apply <EPM_ORACLE_HOME>/OPatch/<PATCH DIRECTORY> -oh <EPM_ORACLE_HOME>
-post <EPM_ORACLE_INSTANCE> -opatch_post_end -jdk <MIDDLEWARE_HOME>/jdk160_35
```

注意:<EPM_ORACLE_HOME>のデフォルトは、C:/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1 です。
<MIDDLEWARE_HOME>のデフォルトは、C:/Oracle/Middleware です。 <EPM_ORACLE_INSTANCE>は、C:/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1 です。

UNIX/Linux:

```
./opatch apply <EPM_ORACLE_HOME>/OPatch/<PATCH DIRECTORY> -oh <EPM_ORACLE_HOME>
-post <EPM_ORACLE_INSTANCE> -opatch_post_end -jdk <MIDDLEWARE_HOME>/jdk160_29
-invPtrLoc <EPM_ORACLE_HOME>/oraInst.loc
```

注意:<EPM_ORACLE_HOME>のデフォルトは、\$HOME/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1 です。
<MIDDLEWARE_HOME>のデフォルトは、\$HOME/Oracle/Middleware です。 <EPM_ORACLE_INSTANCE>は、\$HOME/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1 です。

5. **FDMEE** サービスを再起動します

6. すべてのユーザーは、ここでブラウザのキャッシュ・ファイルをクリアしてください。

FDMEE SAP アダプタとともに使用するための SAP システムの構成

ODI で使用するユーザーを SAP で準備

ODI SAP アダプタは、SAP からのデータ抽出を実行するために、様々なパッケージを作成し、実行します。SAP ユーザーは、この統合のために適切な認証で識別され、準備される必要があります。この項では、必要な認証に関する概要を説明します。

RKM を初めて実行するために必要な認証

RKM は、SAP のいくつかのパッケージを作成するために 1 度実行する必要があります。SAP ユーザーがパッケージを作成するには、開発キーが必要です。これらのパッケージは、データ・ロードの手順で必要となります。RKM を 1 度正常に実行した後は、RKM を再度実行する必要はありません。RKM を最初に実行するために必要な認証を次に示します。

SAP ECC 6.0 EHP6

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	DDIF_FIELDINFO_GET、RFCPING、RFC_ABAP_INSTALL_AND_RUN、RFC_GET_FUNCTION_INTERFACE、
	RFC_TYPE	FUGR、FUNC
S_TCODE	TCD	SU53、SE38
S_DATASET	ACTVT	34
	FILENAME	\\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SYSTEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSTRF
S_DEVELOP	ACTVT	01, 02, 03
	DEVCLAS	\$TMP、ZODI_LKM_PCKG、ZODI_RKM_PCKG
	OBJNAME	Z\$\$\$XRFC、ZODI*

	OBJTYPE	DEVC、FUGR、FUNC、PROG、CHAR
	P_GROUP	
S_TRANSPRT	ACTVT	01, 03
	TTYTYPE	DTRA、TASK

SAP ECC 6.0 EHP3

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIF、SDIFRUNTIME、SUTL、SYST、SYSU、ZODI_FGR
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53、SE38
S_CTS_ADMI	CTS_ADMFCT	TABL
S_DATASET	ACTVT	34
	FILENAME	\\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SYSTEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSTRF
S_DEVELOP	ACTVT	01, 02, 03
	DEVCLAS	\$TMP、ZODI_LKM_PCKG、ZODI_RKM_PCKG
	OBJNAME	Z\$\$\$XRFC、ZODI*
	OBJTYPE	DEVC、FUGR、FUNC、PROG、MSAG
	P_GROUP	
S_TABU_DIS	ACTVT	03
	DICBERCLS	*

S_TRANSPRT	ACTVT	01, 03
	TTYPE	DTRA、 TASK

SAP 4.7C

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、 SDIFRUNTIME、 SUTL、 SYST、 ZODI_FGR
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53、 SE38
S_ADMI_FCD	S_ADMI_FCD	MEMO
S_CTS_ADMI	CTS_ADMFCT	TABL
S_DATASET	ACTVT	34
	FILENAME	\\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SYSTEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSLOG、 SAPLSTRF
S_TABU_DIS	ACTVT	03
	DICBERCLS	*
S_DEVELOP	ACTVT	01, 02, 03
	DEVCLAS	\$TMP、 ZODI_LKM_PCKG、 ZODI_RKM_PCKG
	OBJNAME	Z\$\$\$XRFC、 ZODI_FGR、 ZODI_FGR_PROD、 ZODI_LKM_PCKG、
	OBJTYPE	DEVC、 FUGR、 PROG、 MSAG
	P_GROUP	
S_TRANSPRT	ACTVT	01
	TTYPE	DTRA、 TASK

注意: FILENAME は<SAP サーバー名>で始まり、<SAP システム ID>で終了する必要があります。

例: [\\DELVM04S04\sapmnt\trans\actlog\IB1*](#)

RKM が正常に実行されると、SAP に次に示すプログラムが作成されます。

パッケージ	関数グループ	関数	作成者	使用方法
ZODI_RKM_PCKG	ZODI_FGR	ZODI_GET_SAP_MODULES	RKM	すべてのアプリケーション・コンポーネントをSAPから取得します。
		ZODI_RFC_ABAP_INSTALL_AND_RUN	RKM	これは、ODI Open Tool が生成したコードを入力として受け入れ、関数モジュールを作成して、アクティブにします。
		ZRFC_UPLOAD_INSTALL_WRAPPER	RKM	これは、ZRFC_ABAP_INSTALL_AND_RUN のラッパーです
		ZODI_RFC_GET_TABLES	RKM	SAP から表のリストを取得します
		ZODI_RFC_GET_TABLE_INDEXES	RKM	表の表索引を取得します
		ZODI_RFC_TABLE_KEYS	RKM	表に関連するすべてのキーを取得します
		ZODI_ABAP_SYNTAX_CHECK	RKM	コードをインストールし、実行します
		ZODI_BG_REPORT_SAVE_ACTV	RKM	コードをインストールし、実行します
		ZODI_RFC_GET_FIELDS	RKM	ODI LKM アップロード済プログラム
ZODI_LKM_PCKG	ZODI_FGR_PROD	ZODI_APPLOG	RKM	
		ZODI_BG_CONTROLLER	RKM	
		ZODI_RFC_DELETE_FILE	RKM	FTP ファイルを削除します
		ZODI_LOGMSG_ADD	RKM	
		ZODI_LOGMSG_ADD_TASK	RKM	

ABAP のアップロード・オプションを有効にした LKM を実行するために必要な認証

データ・ロードが実行されると、ODI は関数モジュールを作成し、SAP にアップロードします。SAP ユーザーが関数モジュールを作成するには、開発キーが必要です。この関数モジュールは、SAP からのデータ抽出を実行するために、後で実行されます。この関数モジュールが開発システムで作成され、後に本番環境に移されることに注意してください。開発環境でアップロード・オプション付きで LKM を実行するために必要な認証を次に示します。

SAP ECC 6.0 EHP6

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIFRUNTIME、SYST、ZODI*
	RFC_TYPE	FUGR

S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*、 \\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SY STEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSLOG、SAPLSTRF、SAPLZODI*、ZODI*
S_DEVELOP	ACTVT	01
	DEVCLASS	
	OBJNAME	ZODI*
	OBJTYPE	FUGR、FUNC
	P_GROUP	
S_TRANSPRT	ACTVT	01
	TTYPE	DTRA、TASK

SAP ECC 6.0 EHP3

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIFRUNTIME、SYST、ZODI*
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*、 \\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SY STEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSLOG、SAPLSTRF、SAPLZODI*、ZODI*
S_DEVELOP	ACTVT	01
	DEVCLASS	
	OBJNAME	ZODI_FGR_PROD*
	OBJTYPE	FUGR

	P_GROUP	
S_TRANSPRT	ACTVT	01
	TTYPE	DTRA、TASK

SAP 4.7C

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIF、SYST、ZODI*
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*、 \\<SAP_Servername>\sapmnt\trans\actlog\<SAP_SY STEM_ID>*
	PROGRAM	SAPLSLOG、SAPLSTRF、SAPLZODI*、ZODI*
S_DEVELOP	ACTVT	01
	DEVCLASS	
	OBJNAME	ZODI_FGR_PROD*
	OBJTYPE	FUGR
	P_GROUP	
S_TRANSPRT	ACTVT	01
	TTYPE	DTRA、TASK

注意: デフォルトでは、FDMEE-SAP アダプタによって使用されるファイル転送メソッドは、FSMOUNT_DIRECT です。

転送メソッドとして FTP を使用する必要がある場合、S_DATASET->FILENAME 認証オブジェクトでデフォルトの SAP 作業ディレクトリを指定する必要があります。ファイルのパスは 40 文字を超えることはできません。
例 E:\usr\sap\IB1\DVEBMGS00\work\ZODI*。

カスタム SAP 一時作業ディレクトリが ODI トポロジ->SAP サーバー->フレックス・フィールドで指定されている場合、同じ一時パスが S_DATASET->FILENAME 認証オブジェクトで指定される必要があります。

ここで、

<servername> ネットワーク名。

<sharename> 共有の名前。

<directory> 共有ディレクトリの下にある任意の追加ディレクトリ。

Z* SAPによって生成される動的一時ファイルおよび「Z」で始まるファイルの名前。例
[\\DELVM04S04\FTP_FILES\Z*](#)

作成される関数モジュールを次に示します。

パッケージ	関数グループ	関数	作成者	使用方法
ZODI_LKM_PCKG	ZODI_FGR_P ROD_<数値>	ZODI_PROD_< 数値>_<数値>	LKM	これは、 ZRFC_ABAP_INSTALL _AND_RUNによって作 成される関数モジュール です。実行すると、これ はSAPからデータを抽 出します。

ABAP のアップロード・オプションを無効にした LKM を実行するために必要な認証(QA または本番)

本番環境では、LKMはODIでUPLOAD_ABAP_CODEオプションが「false」に設定されて実行されます。ABAPコードをアップロードせずにLKMを実行するために必要な権限を次に示します。

SAP ECC 6.0 EHP6

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	DDIF_FIELDINFO_GET、RFC1、RFCPING、 RFC_GET_FUNCTION_INTERFACE、SYST 、ZODI_FGR_PROD *
	RFC_TYPE	FUGR、FUNC
S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*、
	PROGRAM	SAPLSLOG*、SAPLSTRF*、SAPLZODI*、ZODI*

SAP ECC 6.0 EHP3

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIFRUNTIME、SYST、ZODI_FGR_PROD*
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*
	PROGRAM	SAPLSLOG、SAPLSTRF、SAPLZODI*、ZODI*

SAP 4.7C

オブジェクト名	フィールド名	値
S_RFC	ACTVT	16
	RFC_NAME	RFC1、SDIFRUNTIME、SYST、ZODI_FGR_PROD*
	RFC_TYPE	FUGR
S_TCODE	TCD	SU53
S_DATASET	ACTVT	06, 33, 34
	FILENAME	\\<servername>\<sharename>\<directory>\Z*
	PROGRAM	SAPLSLOG、SAPLSTRF、SAPLZODI

SAP でのインストール・ベース・パッケージの作成

SAP ディクショナリを使用し、統合のための様々なプロセスを実行するには、SAP に基本のオブジェクト・セットをインストールする必要があります。SAP でベースとオブジェクトを作成するには、2つの方法があります。1つ目の選択肢は ODI でリバース・エンジニアリング・プロセスを実行することです。2つ目の選択肢は、SAP トランスポート要求をインポートすることです。

RKM の実行

リバース・エンジニアリングの手順は、SAP にいくつかのパッケージを作成するために、1度実行する必要があります。SAP ユーザーがパッケージを作成するには、開発キーが必要です。これらのパッケージは、データ・ロードの手順で必要となります。RKM を1度正常に実行した後は、RKM を再度実行する必要はありません。リバース・エンジニアリングを実行する前に、次の RKM オプションを設定する必要があります。

SAP RKM オプション	値
UPLOAD_ABAP_CODE	True
UPLOAD_BASE_CODE	True

--	--

SAP トランスポート要求のインポート

ユーザーは、データ・ロード手順に必要な ODI SAP KM パッケージを、各 SAP システムでトランスポート要求をインポートすることで得ることもできます。この方法は、最初の手順として RKM の実行を必要とせず、TR が正常にインポートされると、SAP システム・ユーザーは各アダプタに対してデータ・ロード手順を始めることができます。

1. 製品リスト **ODI SAP KM トランスポート要求**で、各 SAP システムにおいて必要な TR を、Bristlecone Web サイト(http://www.bristleconelabs.com/edel/edel_login.asp) からダウンロードします。
2. SAP 基本チームに連絡し、各 SAP システムに必要な TR をインポートします。
3. インポート後、チームに SE80 Tcode で次に示すパッケージの検証を依頼してください。

パッケージ	関数グループ	関数	作成者	使用方法
ZODI_RKM_PCKG	ZODI_FGR	ZODI_GET_SAP_MODULES	RKM	すべてのアプリケーション・コンポーネントを SAP から取得します。
		ZODI_RFC_ABAP_INSTALL_AND_RUN	RKM	これは、ODI Open Tool が生成したコードを入力として受け入れ、関数モジュールを作成して、アクティブにします。
		ZRFC_UPLOAD_INSTALL_WRAPPER	RKM	これは、ZRFC_ABAP_INSTALL_AND_RUN のラッパーです
		ZODI_RFC_GET_TABLES	RKM	SAP から表のリストを取得します
		ZODI_RFC_GET_TABLE_INDEXES	RKM	表の表索引を取得します
		ZODI_RFC_TABLE_KEYS	RKM	表に関連するすべてのキーを取得します
		ZODI_ABAP_SYNTAX_CHECK	RKM	コードをインストールし、実行します
		ZODI_BG_REPORT_SAVE_ACTV	RKM	コードをインストールし、実行します
		ZODI_RFC_GET_FIELDS	RKM	ODI LKM アップロード済プログラム
ZODI_LKM_PCKG	ZODI_FGR_PROD	ZODI_APPLOG	RKM	
		ZODI_BG_CONTROLLER	RKM	
		ZODI_RFC_DELETE_FTP_FILE	RKM	FTP ファイルを削除します
		ZODI_LOGMSG_ADD	RKM	
		ZODI_LOGMSG_ADD_TASK	RKM	

ドリル・バックのための SAP の構成

1. SAP ECC 6.0 では、**SICF** トランザクションをオープンし、**WEBGUI** サービスを選択してアクティブ化します。
 7. SAP 4.7 では、次のリンクで説明している指示に従ってください。
<http://www.sdn.sap.com/irj/scn/go/portal/prtroot/docs/library/uuid/b040d0f8-a9e9-2a10-5a9c-5a9c-a25098f7e096?QuickLink=index&overridelayout=true&27122718504439a25098f7e096?QuickLink=index&overridelayout=true&27122718504439>
-

SAP ソース・システムとともに使用するための ODI の構成

ODI Studio および SAP JCo のインストール

1. EPM 11.1.2.3 メディア・キットの一部として含まれている ODI_Studio_11123.zip を使用して、ODI Studio をインストールします。ODI Studio は、ODI リポジトリにアクセスできるどのサーバーにでもインストールできます。
2. SAP JCo ファイルは、ODI Studio と一緒にインストールする必要があります。次のリンクの第 7.2.3.1 項に記載されている手順に従ってください。
http://docs.oracle.com/cd/E17904_01/doc.1111/e17466/sap_abap_erp.htm#CHDDBIIH
 - a. ご使用の構成に対し、サポートされている JCo バージョンを <http://service.sap.com/connectors> からダウンロードします。
 - b. 適切な配布パッケージを一時ディレクトリ <sapjco-installpath> に解凍します。
 - c. JCo ドキュメント (<sapjco-installpath>/javadoc/installation.html) で説明している、ご使用のプラットフォームのインストール手順に従います。
3. SAP の Open Tool (odi-sap.jar) を Bristlecone Web サイト (<http://www.bristleconelabs.com/edel/login.html>) からダウンロードし、次のパスにコピーします。ファイルがすでに存在している場合には、上書きします。
 - <ODI_HOME>\oracledi.sdk\lib パス。
4. ODI Designer に接続し、ODI のメニュー・オプション Open Tools の追加/削除に進みます。Open Tool クラス名テキスト・ボックスにクラス名 oracle.odi.sap.km._OdiSapAbapExecute を入力し、Open Tool の追加ボタンをクリックします。正常に追加されると、Open Tool バージョン 10.1.3.20 が表示されます。

トポロジおよび作業リポジトリの設定

1. ODI を構成する前提条件については、『Oracle® Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition 管理者ガイド』を参照してください。
2. ODI でトポロジを構成します
 - a. FSMOUNT_DIRECT のファイル・サーバーを設定します。

SAP アダプタ・プロジェクトは、SAP ERP to SQL LKM を活用して、データを抽出およびロードします。この KM は、SAP システムおよび ODI エージェントからアクセス可能なフォルダを必要とします。これは、一般的に ODI エージェント・マシンのフォルダを SAP システムと共有することで実現します。このフォルダは、抽出プロセス中に生成されたデータ・ファイルとその他の KM ファイル(log、ctl および out ファイル)を転送するためのフォルダです。ユーザーは ODI トポロジ内にこれを構成する必要があります。同じようにするには、次の手順に従ってください。

- ファイル・サーバーFDMEE_SAP_FSMOUNT(ファイル・テクノロジーの下)を開きます。
 - オプション JDBC で JDBC ドライバに com.sunopsis.jdbc.driver.file.FileDriver を設定します。
 - オプション JDBC で JDBC URL に jdbc:snps:dbfile?ENCODING=UTF8 を設定します。
- ファイル・サーバーFDMEE_SAP_FSMOUNT(ファイル・テクノロジーの下)の物理スキーマを開き、次を設定します。
 - オプション・ディレクトリ(スキーマ)で、ファイルが作成される共有ドライブの場所(例: [\\10.30.0.51\FDM_FSMOUNT\](#))を設定します。
 - オプション・ディレクトリ(作業スキーマ)で、マウントされたフォルダのローカルの場所(例:C:\FDM_FSMOUNT\))を設定します。
- 質問のコンテキストで実行していない場合には、FSMOUNT 物理スキーマを論理スキーマ「SAP ABAP 用ファイル・サーバー」にマップします。

ユーザーはこの共有の場所を SAP システムにマップする必要があります。このフォルダは、ローカルの SAP 基本管理者によって、SAP システムにマウントする必要があります。

- b. デフォルトでは、LKM オプション FTP_TRANSFER_METHOD は、ソース SAP からデータを抽出する ODI プロジェクト(SAP アダプタ・プロジェクト)のすべてのインタフェースで FSMOUNT_DIRECT に設定されていることに注意してください。ODI SAP ERP KM もその他のファイル転送メソッド(FSMOUNT および FTP など)をサポートします。FTP 転送モードは、http://docs.oracle.com/cd/E17904_01/doc.1111/e17466/sap_abap_erp.htm#CHDDBIIH の第 7.7.1 項に従って構成できます。これらのインタフェースでデフォルト以外のモードが設定された場合、「FDMEE インポート・フォーマット」画面からの ODI シナリオの再生成が必要です。

注意: FTP_TRANSFER_METHOD が FTP に設定されている場合、生成される ABAP コードは SAP 作業ディレクトリを FTP 転送のファイル・ステージングのデフォルトの場所として使用します。この場合、別の場所が必要です。ODI トポロジ->SAP サーバーでフレックス・フィールド「SAP 一時ディレクトリ・パス」を設定します。このドキュメントの第 1 項で示すように、この場所の S_DATASET 認証オブジェクトのファイル名の値を入力します。c.SAP データ・サーバーを設定します。

SAP データ・サーバーへの接続を構成する手順を次に示します。

- ODI トポロジ、物理アーキテクチャ、「テクノロジー」、SAP ABAP に進みます
- デフォルトの SAP データ・サーバー(SAP_SERVER)が使用可能になります。サーバーに接続するために必要なサーバー情報とユーザー情報を入力します。
- 前述の SAP データ・サーバーのフレックス・フィールド情報を入力します。
- SAP システム番号、SAP クライアント番号および SAP システム ID を設定します。

- ABAP のアップロードを許可フレックス・フィールドを 1 に設定、および SAP ABAP の実行を許可フレックス・フィールドを 1 に設定します
- 言語、キャラクタ・セット、ABAP バージョンおよび ERP バージョンのフレックス・フィールドを設定します。
- 前述で作成した SAP データ・サーバーの物理スキーマを作成します。
- さらに多くのデータ・サーバーが必要な場合には、新しい SAP データ・サーバーを作成して、これらのサーバーに接続するための情報を入力します。
- 質問のコンテキストで実行していない場合には、SAP サーバーに論理スキーマ(SAP_SOURCE)および物理スキーマをマップします。

3. ODI モデルのインポート

- MFOL_SAP_Adapter_Model という名前の XML を、SAP アダプタを解凍した場所からインポートします。通常の ODI のインポート・モデル・フォルダ機能を使用します。推奨されるインポート・モードは、シノニムです。

最初にインポートするときは、特定の作業リポジトリ ID が存在しないという警告が表示されます。「OK」をクリックして、続行します。インポート後には、プロジェクトにもモデル・フォルダにも警告やエラーの様子が表示されていないことを確認してください。

4. ODI プロジェクトのインポート

- PROJ_SAP_Adapter_Project という名前の XML を、SAP アダプタを解凍した場所からインポートします。通常の ODI のインポート・プロジェクト機能を使用します。推奨されるインポート・モードは、「シノニム」です。

SAP 本番システムの構成

ODI SAP ナレッジ・モジュールは、ODI シナリオの実行中に ABAP プログラムを動的に作成し、SAP システムにアップロードします。ただし、ABAP プログラムのアップロードは、お客様のデプロイメントのすべての環境で実行可能ではない可能性があります。開発環境では、ユーザーは新しいプログラムをアップロードして、新しいオブジェクトを作成するオープンなアクセス権限が多くありますが、QA や本番環境では、新しいプログラムを作成してアップロードするアクセス権限は制限されています。ODI は、いつプログラムをアップロードできるかを管理するユーザー機能を提供します。この統合で推奨されるプロセスを次に示します。

1. お客様は、統合を開発環境で開発し、テストします。この環境では、ABAP プログラムをアップロードするオプションは「はい」に設定されます。これを実行する手順は、非分散 SAP 本番サーバーでは次のようになります。
 - ODI トポロジ->物理アーキテクチャで、SAP 開発サーバーをダブル・クリックして開きます。
 - フレックス・フィールド・タブに進み、SAP ABAP アップロードを許可フレックス・フィールドを 1 に設定します。

QA または本番環境にデプロイする準備ができたなら、お客様はソースにトランスポート要求を作成し、要求をターゲット・システムにリリースする必要があります。ターゲット環境で、ABAP プログラムをアップロードするオプションは 0 に設定されます。これを実行する手順は次のようになります。

 - SAP 開発システムで、ZODI_LKM_PCKG という名前のパッケージのワークベンチ・トランスポート要求を作成し、要求をターゲット SAP システムにリリースします。
 - ODI トポロジ->物理アーキテクチャで、SAP の QA/本番サーバーをダブル・クリックして開きます。
 - フレックス・フィールド・タブに進み、SAP ABAP アップロードを許可フレックス・フィールドを 0 に設定します。

注意: 開発環境でコンカレント・ユーザー・ロードをテストするには、SAP ABAP アップロードを許可を 0 に設定します。この値を設定していない場合、複数のユーザーが同じ ABAP プログラムをアップロードしようとする、エラーになります。

2. ODI トポロジで、分散環境の(ロード・バランスされた)SAP データ・サーバーを設定します。

本番 SAP 環境では、中央インスタンス(CI)またはプライマリ・アプリケーション・サーバー(PAS)および複数のインスタンスと一緒に存在する可能性があります。分散環境で、SAP データ・サーバーに対する接続を構成するには、これらの手順に従ってください。

- ODI トポロジ、物理アーキテクチャ、「テクノロジー」、SAP ABAP に進みます
- 右クリックして、「新規」を選択し、本番用の新規データ・サーバーを作成します。サーバー名およびユーザー詳細を入力します。ホスト(データ・サーバー)の値は入力しないでください。
- フレックス・フィールドに進み、次のエントリを入力します。
- 「システム番号」は空白にしてください。
- 「クライアント番号」および SAP システム ID を設定します。
- ABAP にアップロードを許可フレックス・フィールドを 0 に設定し、SAP ABAP の実行を許可フレックス・フィールドを 1 に設定します。
- 言語、キャラクタ・セット、ABAP バージョンおよび ERP バージョンのフレックス・フィールドを設定します。
- ロード・バランシング: SAP メッセージ・サーバー・ホスト・フレックス・フィールドに、メッセージ・サーバー・ホスト名またはプライマリ・アプリケーション・サーバー名を設定します。
- ロード・バランシング: SAP メッセージ・サービス・フレックス・フィールドに、メッセージ・サーバー・サービス名を設定します。
- ロード・バランシング: SAP システムのシステム ID フレックス・フィールドに SAP システム ID を設定します。
- ロード・バランシング: SAP サーバー・グループ・フレックス・フィールドにログイン・グループ名を入力します
- 次の場所にあるサービス・ファイルにメッセージ・サーバー・サービス(サービス名ポート番号)に対応するエントリがあります。
<Windows>\System32\drivers\etc
- 前述で作成した SAP データ・サーバーの物理スキーマを作成します。
- 質問のコンテキストで実行していない場合には、SAP サーバーの論理スキーマ(SAP_SOURCE)および物理スキーマをマップします。

SAP ソース表

次にこの統合で使用する SAP 表を示します。

SAP 表
CSKS
TKA01
CSKT
COSP
CSKU
SETLEAF
CSKB
COSS
COSR
COSL
ONRKS
TKA03
CSLT
ONRKL
BKPF
BSID
KNA1
BSAD
KNC1
KNC3
FAGLFLEXT
T000
T001
SKAT
TCURT
SKA1
GLT0
GLPCT
CEPCT
CEPC
BSIK
BKPF
LFA1
BSAK
LFC1
LFC3

SAP ソース・システムからデータをインポートするための FDMEE の使用

SAP ソース・システムのための FDMEE の構成

1. EPM ワークスペースを使用して FDMEE にログインします。
2. 「ソース・システム」ページにナビゲートし、新しいソース・システムを次に示す値で定義します。
 - a. ソース・システム・タイプ SAP。
 - b. ODI トポロジ構成中に定義された ODI コンテキストを指定します。デフォルト・コンテキストは、GLOBAL です。
 - c. ドリル URL ボックスは、WEBGUI サービスの SAP サーバーおよびポート番号を表示します。例
<http://10.30.32.42:8000>
3. ソース・アダプタ・ページにナビゲートします。
4. ドリル URL を変更したい場合には、ソース・アダプタのコピーを作成します。ソース・アダプタ・ドリル・バック URL タブでは、必須フィールドがマップされたドリル・バック URL が表示されます。オプションのフィールド名が、特定のソース列/ターゲット列にマップされずに使用可能です。必要な追加のソース列/ターゲット列のオプションのフィールド名を更新し、正常なドリル・バックにマップします。
例:

```
/sap/bc/gui/sap/its/webgui/!/?sap-system-login-basic_auth=x&sap-client=800&saplanguage=EN&~transaction=*FAGLB03%20RACCT-LOW=$$RACCT$  
$;RBUKRSLOW=$$RBUKRS$$;RYEAR=$ATTR4$;RLDNR=;DYNP_OKCODE=ONLI
```

SAP アダプタの使用

次の手順は、FDMEE で FDMEE SAP アダプタを使用してデータをロードするために使用します

- 「インポート・フォーマット」ページで、データをインポートするための新しいインポート・フォーマットを定義します。手順 1 で定義した SAP ソース・システムと適切なアダプタを選択します。ソース列を適切なターゲット・ディメンションにマップします。
- すべてのインポート・フォーマット・マッピングが完了した後、「ODI シナリオの再生成」ボタンをクリックします。この手順は、インポート・フォーマット・マッピングに基づいて ODI シナリオを生成します。
- 「ロケーション」ページで、インポート・フォーマットを使用して新しい場所を定義します。
- 「データ・ルール」ページで新しいデータ・ルールを定義します。適切な期間マッピング方法を選択します。パラメータに値を入力します。
- 次のいずれかの方法を使用してデータ・ルールを実行します。
 - ▲ データ・ルール実行
 - ▲ ワークベンチ
 - ▲ バッチ実行スクリプト

個々の手順の詳細は、『Oracle® Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition 管理者ガイド』を参照してください。

SAP GL アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義

SAP ソース・アダプタを使用して、データ・ロード・ルールを実行する前に、インポート・フォーマットの ODI シナリオを生成しておく必要があります。ODI シナリオが実行リポジトリに存在するようになれば、何度でもデータ・ロード・ルールを実行できます。

SAP GL アダプタでソース・フィルタ・オプションを定義するには、次の手順を実行します。

1. 「金額タイプ」を設定します。
「期間累計」残高に PTD、または「年次累計」残高に YTD を指定します。
2. 「会社コード」を設定します。
「会社コード」は 4 文字以下の英数字で指定します。
3. 「通貨タイプ」を設定します。
新しい GL では、「会社コード」通貨に 10、「取引」通貨に 00、「グループ」通貨に 30、ハード通貨に 40、索引ベース通貨に 50、グローバル企業通貨に 60 を指定します。
従来の GL では、「会社コード」通貨に 10、「取引」通貨に 00、「グループ」通貨に 30 を指定します。
4. 「勘定科目の説明を含む」を設定します。
GL 勘定科目の説明を含める必要がある場合は、「YES」を指定します。それ以外の条件には、「NO」を設定します。
5. 「言語」を設定します。
「言語」を 2 文字以下の大文字を使用して指定します。たとえば、英語には「EN」と指定します。
6. 「元帳」を設定します。
「元帳」を 2 文字以下の英数字で指定します。
7. 「レコード・タイプ」を設定します。
「実績」の場合には 0、または「プラン」の場合には 1 を指定します。
8. 「保存」をクリックします。

SAP 利益センター・アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義

SAP ソース・アダプタを使用して、データ・ロード・ルールを実行する前に、インポート・フォーマットの ODI シナリオを生成しておく必要があります。ODI シナリオが実行リポジトリに存在するようになれば、何度でもデータ・ロード・ルールを実行できます。

SAP 利益センター・アダプタでソース・フィルタ・オプションを定義するには、次の手順を実行します。

1. 「金額タイプ」を設定します。
「期間累計」残高に PTD、または「年次累計」残高に YTD を指定します。
2. 「管理領域」を設定します。
「管理領域」は、4 文字以下の英数字を指定します。
3. 「通貨タイプ」を設定します。

「会社コード」通貨に 10、「取引」通貨に 00、「利益センター」通貨に 70 を設定します(「利益センター」通貨は、CO 領域通貨にも「グループ」通貨にも「利益センター」センターのローカル通貨にもできます)。「数量」フィルタが「YES」に設定されている場合には、空白にします。

4. 「グループ・コード」を設定します。

「利益センター」グループに 0106 または「勘定科目」グループに 0109 を指定します。グループ化が必要ない場合は、空白にします。

5. 「言語」を設定します。

「言語」を 2 文字以下の大文字を使用して指定します。たとえば、英語には「EN」と指定します。

6. 「元帳」を設定します。

「元帳」を 2 文字以下の英数字で指定します。たとえば、このフィールドに 8A と入力するとします。

7. 「ダミー利益センターを含む」を設定します。

ダミー利益センターに関連する残高が必要な場合には、「YES」を入力します。他のすべての条件には、「NO」を入力します。

8. 「数量」を設定します。

「YES」または「NO」を指定します。この値が、「YES」に設定されている場合、「通貨タイプ」は空白にします。それ以外の条件には、この値に「NO」を設定します。

9. 「レコード・タイプ」を設定します。

「実績」の場合には 0、または「プラン」の場合には 1 を指定します。

10. 「保存」をクリックします。

SAP 費用センター・アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義

SAP ソース・アダプタを使用して、データ・ロード・ルールを実行する前に、インポート・フォーマットの ODI シナリオを生成する必要があります。ODI シナリオが実行リポジトリに存在するようになれば、何度でもデータ・ロード・ルールを実行できます。

SAP 費用センター・アダプタでソース・フィルタ・オプションを定義するには、次の手順を実行します。

1. 「アクティビティ・タイプ」を設定します。

「アクティビティ・タイプ」が「YES」に設定されている場合、「通貨タイプ」は空白、「数量」は「NO」に設定する必要があります。

2. 「アクティビティ・タイプの説明」を設定します。

「アクティビティ・タイプの説明」を含むには、「YES」を指定します。含まない場合には、「NO」を指定します。

3. 「金額タイプ」を設定します。

「期間累計」残高に PTD、または「年次累計」残高に YTD を指定します。

4. 「管理領域」を設定します。

「管理領域」は、4 文字以下の英数字を指定します。

5. 「通貨タイプ」を設定します。

「管理領域」通貨には 20、「取引」通貨には 00、「費用センター」通貨には 70 を指定します。「数量」フィルタが「YES」に設定されている場合、または「アクティビティ・タイプ」が「YES」に設定されている場合、空白にします。

6. 「フロー・チェック」を設定します。
「フロー・チェック」では、外部残高をロードするには「EXTERNAL」、内部割当てをロードするには「INTERNAL」を指定します。
7. 「グループ・コード」を設定します。
「フロー・チェック」が「EXTERNAL」に設定されている場合、有効なグループ・コードは、次のようになります。「費用センター」グループは、「0101」
「勘定科目」グループは「0102」
「フロー・チェック」が「INTERNAL」に設定されている場合、有効なグループ・コードは、次のようになります。「費用センター」グループは、「0101」
「勘定科目」グループは「0102」
「統計キー数値」グループは「0104」
「アクティビティ・タイプ」は「0105」グループ化が必要ない場合は空白。
8. 「費用要素の説明を含む」を設定します。
「費用要素の説明」を含めるには「YES」を指定します。含まない場合には、「NO」を指定します。
9. 「言語」を設定します。
「言語」を2文字以下の大文字を使用して指定します。たとえば、英語には「EN」と指定します。
10. 「元帳」を設定します。
「元帳」を2文字以下の英数字で指定します。たとえば、このフィールドに00と入力するとします。
11. 「数量」を設定します。
「YES」または「NO」を指定します。この値が、「YES」に設定されている場合、「通貨タイプ」は空白にします。それ以外の条件には、この値に「NO」を設定します。
12. 「値のタイプ」を設定します。
「実績」の場合には「04」、または「プラン」の場合には「01」を指定します。
13. 「保存」をクリックします。

SAP AP アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義

SAP ソース・アダプタを使用して、データ・ロード・ルールを実行する前に、インポート・フォーマットの ODI シナリオを生成しておく必要があります。ODI シナリオが実行リポジトリに存在するようになれば、何度でもデータ・ロード・ルールを実行できます。

SAP AP アダプタでソース・フィルタ・オプションを定義するには、次の手順を実行します。

1. 「金額タイプ」を設定します。
「フロー・チェック」が「オープン」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。
「期間累計」残高は PTD。
「年次累計」残高は YTD。
「フロー・チェック」が「CLEARED」に設定されている場合、「金額タイプ」は次のようになります。

「期間累計」残高は PTD。

「年次累計」残高は YTD。

「フロー・チェック」が「ALL」に設定されていて、特別 GL 取引が「NO」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。

「期間累計」残高は PTD。

「年次累計」残高は YTD。

「フロー・チェック」が「ALL」に設定されていて、特別 GL 取引が「YES」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。

「年次累計」残高は YTD。

2. 「会社コード」を設定します。

「会社コード」は 4 文字以下の英数字で指定します。

3. 「通貨タイプ」を設定します。

「会社コード」通貨には 10、「取引」通貨には 00 を指定します。

4. 「フロー・チェック」を設定します。

「フロー・チェック」で「OPEN」を指定して、オープン・アイテム残高をロードするか、「CLEARED」を指定してクリアされたアイテム残高をロードするか、「ALL」を指定してすべてのアイテムをロードします。

5. 特別 GL 取引を設定します。

デフォルトでは、特別 GL 残高はロードされません。そのため、「NO」に設定してください。特別 GL 取引残高をロードする必要がある場合にのみ「YES」を指定します。

6. 「取引パートナ」を設定します。

「取引パートナ」残高のみをロードする必要がある場合には、「YES」を指定します。それ以外の場合には、「NO」を設定します。

7. 「ベンダー」を設定します。

特定のベンダーに残高が必要な場合には、「ベンダー」を 10 文字で指定します。必要がない場合には、空白にします。

8. ベンダー詳細を設定します。

ベンダー詳細を含むには、「YES」を指定します。含まない場合には、「NO」を指定します。

9. 「保存」をクリックします。

SAP AR アダプタのソース・フィルタ・オプションの定義

SAP ソース・アダプタを使用して、データ・ロード・ルールを実行する前に、インポート・フォーマットの ODI シナリオを生成しておく必要があります。ODI シナリオが実行リポジトリに存在するようになれば、何度でもデータ・ロード・ルールを実行できます。

SAP AR アダプタでソース・フィルタ・オプションを定義するには、次の手順を実行します。

1. 「金額タイプ」を設定します。

「フロー・チェック」が「オープン」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。

「期間累計」残高は PTD。

「年次累計」残高は YTD。

「フロー・チェック」が「CLEARED」に設定されている場合、「金額タイプ」は次のようになります。

「期間累計」残高は PTD。

「年次累計」残高は YTD。

「フロー・チェック」が「ALL」に設定されていて、特別 GL 取引が「NO」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。

「期間累計」残高は PTD。

「年次累計」残高は YTD。

「フロー・チェック」が「ALL」に設定されていて、特別 GL 取引が「YES」に設定されている場合、有効な「金額タイプ」は次のようになります。

「年次累計」残高は YTD。

2. 「会社コード」を設定します。
「会社コード」は 4 文字以下の英数字で指定します。
3. 「通貨タイプ」を設定します。
「会社コード」通貨には 10、「取引」通貨には 00 を指定します。
4. 「フロー・チェック」を設定します。
「フロー・チェック」で「OPEN」を指定して、オープン・アイテム残高をロードするか、「CLEARED」を指定してクリアされたアイテム残高をロードするか、「ALL」を指定してすべてのアイテムをロードします。
5. 特別 GL 取引を設定します。
デフォルトでは、特別 GL 残高はロードされません。そのため、「NO」に設定してください。特別 GL 取引残高をロードする必要がある場合にのみ「YES」を指定します。
6. 「取引パートナー」を設定します。
「取引パートナー」残高のみをロードする必要がある場合には、「YES」を指定します。それ以外の場合には、「NO」を設定します。
7. 「顧客」を設定します。
8. 特定の顧客に残高が必要な場合には、「顧客」を 10 文字で指定します。必要ない場合には、空白にします。
9. 顧客詳細を設定します。
顧客詳細を含むには、「YES」を指定します。含まない場合には、「NO」を指定します。
10. 「保存」をクリックします。